

第3版はしがき

法律学とは「社会の中で生じる紛争をルールによって解決に導くための学問」であり、しかしそこに「唯一絶対の答え」はない。このことを伝えるのが、本書の意図の1つです。第2版からの改訂にあたり、この意図がより分かりやすく伝わるように、いくつかの箇所を書き換えました。同時に、法学部4年間の学びの出発点として役に立つよう、第2章に憲法に関する説明を加えるとともに、本書全体で、法律学を学ぶ上で知っておくべき用語を太字にしています。また、索引を付けたので、2年生以降になっても、本書でどのような説明がされていたかを後から振り返りやすくなりました。

さらに、ページ下の欄外に「年齢と法」にまつわるコラムをQ&A形式で書き下ろしました。本書で学習する際の息抜きになれば、そして法律学への興味を改めてもってもらえれば幸いです。

改訂作業中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会は大混乱に陥りました。その中で、国・都道府県・市町村といった政策決定の主体も、大企業から個人経営の飲食店にいたる経済活動の主体も、感染拡大の防止と経済活動の維持をどう両立するかという、答えのない問題を突きつけられました。法学部で学ぶみなさんは、近い将来、そうした答えのない問題が生じる社会の中で貢献することが期待されています。本書を読みながら、「どうしてこう考えるのだろう」「実際の社会での具体例はどんなものがあるだろう」「自分だったらどう考えるだろう、でもそれに対して他の人はどう考えるだろう」と多くの疑問を思い浮かべ、その疑問を手掛かりにして「法学部生らしい考え方」を身につけてもらいたいと心から願っています。

改訂にあたって、初版・第2版の刊行と同様、法律文化社の野田三納子さんにお世話になりました。心より感謝申し上げます。

2020年9月

吉永一行